



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っています」

聖書(ローマ書9章3節)

牧師 河合裕志

よくもこれだけの言葉を言えたもの。疑いたくなる。ホントにホント？正真のパウロの言葉？パウロは何と言っていた。「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができます。艱難か。苦しみか。迫害か。……」(ローマ8・35)と述べていたのではなかった？それがここでは手の裏をかえすようにして、キリストから離されてもよいとさえ思っています、と。

これはどう理解したらいい。心境の変化というものか。キリストの愛が信じられなくなったのか。そういうことではないだろう。それではどういうこと。

鍵になる言葉は「同胞のためならば」にありそう。同胞、つまりユダヤ人、イスラエル人のためならば、ということ。その「何のため」？それは一言でいえば「救いのため」ということになりそう。

パウロの見るところ、同胞はキリストの救いを拒み続けている。キリストの十字架と復活によってもたらされた罪の赦しと永遠の命を受け入れようとしない。反ってキリストを偽のメシアとし、その追随者を迫害している。それはかつてのパウロの姿そ

のまま。これでは将来滅びが待っているばかり。これを何としてもくい止めなければ。

もし同胞が救われるのであれば私はどうなってもいい。たとえキリストから離されても……につながって行くということなのだろう。それほどまでに同胞を深く思っている。自分のキリスト、救い、命と引き換えになってもいいと。誠に強い同胞愛。一寸ついて行けない。

私達は普段そんな愛を持っているものだろうか。国際試合で日本が勝てば嬉しい。同胞が拉致にあたり、テロの犠牲になったりすれば悲しい。この程度の同胞愛は持っている。しかしその救いを願う、というところまではなかなか行かない。

内村鑑三は二つの「J」ということを言った。

Jesus と Japan、イエスと日本。これを受す、と。彼はイエスを救い主と信じ日本を愛し、同胞の救いのために祈り労した。私達も及ばずながら二つの「J」を心に秘めて歩んで行ければ幸い。もっと日本とその行く末を深く覚え、同胞を愛し、その救いのために、あるいはその幸せと福祉のために祈り努めるものとさせて頂ければ。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時
子どもの教会：日曜日午前9時
求道者会：日曜日午前9時40分
中高青年会：日曜日礼拝後
お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時
お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時